

住民の立場で合併を検証する

合併報告書



合併して5年が経過し、「合併して良かった」「一体感が醸成してきた」などとして、合併（市制施行）5周年を記念する行事が行われています。

しかし、旧浅羽町のわたしたちにとって、本当に「合併して良かった」と感じられているのでしょうか。

「財政がやっていけない」と危機感をあおり、合併すれば「負担が低くなり、サービスも高くなる」「バラ色のまちづくりができる」と描き、住民投票等の住民の意思確認のないまま強引にすすめた合併...

この機に、住民の立場から、合併を検証してみたいと思います。

日本共産党浅羽支部

「負担は低く、サービスは高く」 これが合併の原則・約束ですが

「浅羽にとって、合併による
マイナスは何もありません」
(合併協議会による住民説明会)

都市計画税の新たな課税

平成23年度から、旧浅羽地域にも「都市計画税」が課税されることが、住民の理解・納得もなく決まりました。

旧浅羽町区域だけで年間2億4千万円もの増税となります。この不景気・収入減の中では大変厳しいものです。

それでも、何かわたしたちに有効に使われるならば、まだ理解できます。

ところが、市全体の都市計画事業は大きく縮小されるのです。旧浅羽町地域には、ほとんどありません。当局も「この地域には下水道事業があるくらいです」と説明しています。下水道事業についても用途地域外のものは、都市計画事業ではないため、都市計画税は使えないのです。

今後7年間の都市計画税の使途計画では、借金返済が年間2億4千万円増えるようになっていきます。

合併により国保税率引き上げ

合併した平成17年4月1日から、国保税が別表のように大幅に引き上げられました。

当局は「これは合併によるものでなく、合併しなくても医療費が高騰し、旧浅羽町は税率を引き上げなくてはならなかった」と説明しました。

ところが、平成16年度の決算(9月議会)では剰余金が8000万円余もあったことが明らかになりました。

その後も、国保税率は引き上げられ、「払いたくても払えない」という状況もでていきます。

平成17年の国保税改定

	新市	浅羽町	袋井市
所得割	5.2%	4.9%	5.3%
資産割	31%	29%	34%
均等割	25800円	24500円	25000円
平等割	26400円	27000円	25000円

水道料金も統一でアップ

この4月1日より、水道料金が引き上げられました。

水道料金の統一が、合併後の課題として残っていました。笠原簡易水道の統合もあり、全体に「水道料金の改定」が行われました。

この改定では、旧浅羽町に(特に大口利用者には)大変厳しいです。

平成21年度で試算したのが別表です。

あまりに大幅な引き上げとなるので、3年間「激変緩和措置」が行われます。

	新料金収入	旧料金収入	差額	率
旧浅羽	3億7800万円	2億9700万円	8100万円	27%
旧袋井	11億5700万円	11億3400万円	2300万円	2%
全体	15億7500万円	14億5300万円	1億2200万円	8.3%

基金に大差、介護保険

介護保険料は、平成15年の改訂時に、合併を見越して袋井市・森町・浅羽町が同額としました。

そのため、基金残高に大きな違いがでました。被保険者一人あたりで、浅羽町10600円程度に比べ、袋井市は2100円程度と5分の1でした。

合併を機に、基金は統合されてしまいました。

合併のメリットは

旧袋井市には、乳幼児医療費の無料の拡充、幼稚園保育料の引き下げなど明確なメリットがありました。

旧浅羽町には、たとえば、スポーツ指導員育成奨励金6千円などを含め33項目(住民説明会で当局が示す)ありましたが、試算するとその総額は2700万円程度でした。

それに比べ、都市計画税の新たな増税、水道料金引き上げなどのデメリットは桁が違います。

『南から乗降できる駅』『海浜公園』
『月見の里規模の交流施設』『健康管理センター』...

バラ色に描かれた まちづくり

合併協議会では、『アメ』といわれる合併特例債を活用して、次のような事業が考えられるとして合併特例債対象候補事業が示されていました。

総合健康管理センター整備事業	10億円
海浜公園等整備事業	30億円
JR袋井駅舎改築・駅南整備事業	55億円
県道磐田掛川線整備事業	1億円
地域交流プラザ整備事業	40億円
複合型スポーツ・健康増進施設整備事業	39億円
計	175億円

メロープラザようやく完成

『町民会館』は耐震性の問題もあり、建てかえが合併前から検討されてきました。平成19年から20年度には実現される予定でした。

合併後も旧浅羽町地域にとっては、緊急の重要課題でした。ところが、85000人を対象とした検討などで構想決定が遅れ、建築確認事務手続きの変更・強化、建設資材の高騰などにより、完成は大きく遅れました。

『町民会館』当時と同様、使い勝手の良い施設として、誰もが気軽に利用できる施設にしましょう。



大変有利な『合併特例債』が
活用できます

南口のある駅は、どうなった

「南側から駅に入ることができるように、駅を橋上化し、浅羽のみなさんの利便性を高めます」と大宣伝していました。

市が示した構想は、30数億円の費用で、幅員8mの南北自由通路など「身の丈に合わない」ものでした。また、JRの負担は、バリアフリー化に伴う費用わずか1700万円というものでした。

全国で駅改築に関し、鉄道事業者の負担の低さが問題となり、国と鉄道事業者との協議・協定が検討されました。

こうした経過もあり、未だ実現の方向が見えていません。



健康管理センターは

旧浅羽町地域は、医院も少なく、病院に対する要望はきわめて大きいところでした。

「合併すれば『おらが病院』ができる。袋井市民病院は規模も経営もしっかりしている。そして、病院を核に『健康管理センター』をつくり、市民の健康を守っていく」との話でした。

ところが、医師不足となり、診療科、病床数が減少し、『お産もできないまち』となりました。経営も急速に悪化し、いまでは住民一人あたり1万円の税金が繰り入れられています。

新病院も掛川地内に建設されるようになり、病院を核とした健康管理センターは困難となり、別の検討を余儀なくされています。

「地域コミュニティー」「地域の和」「地域のにぎわい」の後退が

基本的組織...自治会こそ活発に

自治会は、地域コミュニティの基礎単位として大変重要な組織です。この自治会への交付金が、合併で大幅に削減されました。地明会の補助金削減とともに、地域の行事にも影響しました。また、旧浅羽町では、町と自治会が直接でした。合併により、各地区に自治会連合会という組織が新たにでき、行政への距離は遠くなりました。

あらゆるところに袋井方式

公民館の夜間管理人の廃止など、いろんなところで「袋井方式」への統合が行われました。また、各組織・団体も統合により「袋井方式」が適用され、これまで築いてきたものが継承されない事態もおきています。

消えていく地域のイベント

旧浅羽町地域では、町を単位としたイベントも多く実施されてきました。ところが合併後どんどん消えています。元旦の「歩け歩け大会」が、夏の「海の日ふれあいのイベント」、秋の「コスモスまつり」、冬の「わいわいフェスティバル」...。「ふれあい夢市場」も、昨年で一つの区切りとなりました。

縮小され続ける支所

「役所が遠くなる」「声が届きにくくなる」の不安に対し、当局は、「支所を設置するので大丈夫。支所は、簡単な事務を処理する出張所と違い、事務全般にわたって地域的に分掌するもの」と説明してきました。

年度	課	係・室	職員数
17	4	7	34名
18	4	4	24名
19	2	5	22名
20	2	5	17名
21	2	4	17名
22	2	4	16名

しかし、別表のように毎年縮小され、当初34名いた職員は16名に、4つあった「課」は2つに、7つ合った「係」は4つに、それぞれ半減しています。支所は、権限もなく、十分な役割を果たしているとはいえません。



ふれあい夢市場



海岸まつり



コスモスまつり

吸収されたのか...浅羽の良さを生かそう

「対等合併」...何度も、いつも、言われた言葉です。

しかし、その言葉が空々しく聞こえます。「浅羽」が、対等に手を組んだ相手として考慮されているのか疑うことが多々あります。

行政の幹部に「浅羽」のことが分かる方が少ないのです。第2期原田市政の特別職の中には浅羽の方はいません。今年度の人事異動で、部長職の中にも浅羽町職員だった方は、わずかに1名となりました。

市長は、水曜日にはできる限り浅羽支所で執務する途のことで、支所に市長室も設けられています。しかし、いまは利用されていません。

この2月議会では、「平成7年の袋井市総合計画では...」「20年ぶりで請願提出が...」など、まるで、袋井市がずーと継続しているような発言が、議会内でも相次いでいます。

「浅羽地域審議会で、いろいろみなさんの意見を伺っていきたい」として、地域審議会が「浅羽」だけに設置されました。

合併に伴う変更や、協議事項の変更や修正などについては、地域審議会に諮問することになっていますが、この方一度も市長からの諮問はありません。

より大きく変化した旧浅羽町の住民が、「合併して良かった」と感じるかどうか、思うかどうかということが、この合併を検証・評価するとき、大事なことではないでしょうか。

浅羽の良さが生かされる市政こそ、合併して良かったまちづくりの基礎ではないでしょうか。



ご意見・ご感想など、お寄せ下さい 浅田二郎まで

住所 浅羽 2528 1

電話・FAX 23 - 2272

メール asadajiro@ck.tnc.ne.jp

<発行> 2010年5月 日本共産党浅羽支部